

照会先

厚生労働省社会・援護局

障害保健福祉部 企画課

広報・自治体支援係長 上原（内 3007）

代表 03-5253-1111

平成18年身体障害児・者実態調査結果

平成20年3月24日

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課

目次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査対象及び客体	1
3 調査時期	1
4 調査の経路	1
5 調査の方法	1
6 調査票の回収状況と調査結果の推計方法	2
7 利用上の注意	2

II 調査結果の概要

1 身体障害児・者の状況	3
(1) 身体障害児・者数	3
(2) 年齢階級別の身体障害児・者数	11
(3) 身体障害の程度(等級)	14
(4) 身体障害の原因	17
(5) 身体障害の原因となった疾患	19
(6) 同居者の有無(身体障害者)	21
(7) 身体障害者手帳等の所持の状況	22
2 日常生活の状況	
(1) 点字の習得及びコミュニケーション手段の状況(身体障害者)	24
(2) 情報の入手方法(身体障害者)	26
(3) パソコンの利用状況(身体障害者)	27
(4) 介助の状況	28
(5) 外出の状況(身体障害者)	31
(6) 活動等の状況(身体障害者)	33
(7) 過去1年間に障害のために医療機関で受けた治療の状況(身体障害者)	34
(8) 住宅の状況と改修の状況(身体障害者)	34
(9) 課税等の状況(身体障害者)	36
(10) 公的年金・手当の受給状況(身体障害者)	37
(11) 就業の状況(身体障害者)	39
(12) 収入の状況(身体障害者)	45
(13) 在宅サービスの利用状況	46
(14) 補装具及び日常生活用具の所有状況	54
(15) 福祉サービスを利用する際の相談相手(身体障害者)	60
(16) 特に必要と感じている福祉サービス等	61
(17) 日中活動の場(身体障害児)	63
(18) 児童相談所等の利用状況(身体障害児)	64
(19) 児童福祉施設等の利用状況(身体障害児)	64

III 用語の解説	65
-----------	----

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、在宅身体障害児・者の生活の実情とニーズを把握し、今後における身体障害児・者福祉行政の企画・推進のための基礎資料を得ることを目的として、5年に1度実施しているものである。

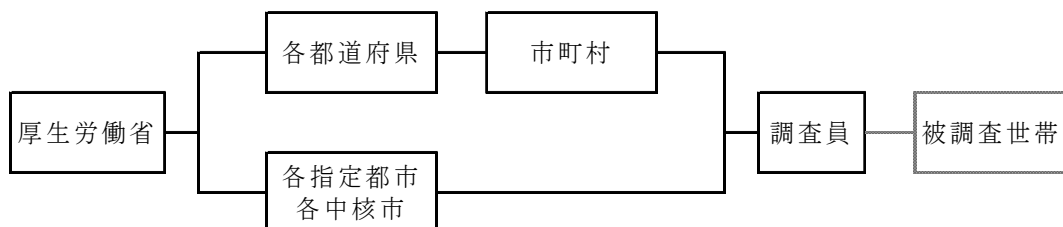
2 調査対象及び客体

調査名	調査対象及び客体
身体障害者実態調査	18歳以上の身体障害者（身体障害者手帳所持者及び手帳は未所持であるが身体障害者福祉法別表に掲げる障害を有する者）のいる世帯を対象とし、2,600国勢調査調査区に居住する身体障害者を客体とした。
身体障害児実態調査	18歳未満の身体障害児（身体障害者手帳所持者及び手帳は未所持であるが身体障害者福祉法別表に掲げる障害を有する者）のいる世帯を対象とし、9,800国勢調査調査区に居住する身体障害児を客体とした。

3 調査時期

平成18年7月1日現在

4 調査の経路



5 調査の方法

- (1) 調査員が、調査地区内の世帯を訪問し、調査の趣旨等を説明のうえ、調査対象者の有無を確認する。
- (2) 調査対象者がいる場合は、調査票を手渡し、記入及び郵送による返送を依頼する（自計郵送方式）。
- (3) 調査票は、原則として調査対象者本人が記入する。

6 調査票の回収状況と調査結果の推計方法

この調査は、標本調査法に基づく標本設計に従って、全国から無作為に抽出された調査地区において把握された身体障害児・者を調査の客体としている。

また、標本設計は、平成12年国勢調査で使用された調査区を用い、層化無作為抽出法により全国の調査区を、身体障害者は2,600地区、身体障害児は9,800地区抽出し、その調査地区に居住する全世帯員を調査したものである。

「5 調査の方法」で述べたように、調査の客体となった身体障害児・者のプライバシーを保護すること、調査票提出の自由意志を尊重すること等を配慮して、調査票の回収は、郵送により行った。その回収状況は以下のとおりである。

調査実施の状況		身体障害者	身体障害児	
調査対象者数	a	9,746人	979人	Zi
本調査が不能であったもの（長期不在、調査拒否等）	b	2,833人	312人	
本調査が可能であったもの	a - b = c	6,913人	667人	
調査票が回収されたもの	d	4,715人	421人	
障害1～6級に該当		4,263人	301人	Xi Yi
障害1～6級に非該当		14人	7人	
集計不能		438人	113人	
調査票が回収されなかったもの		2,198人	246人	

死亡、長期不在、調査拒否及び調査票未回収のものの障害の程度が、回収したもののそれと同一であったと仮定して、比推定法による推計を試みた。すなわち、全国推計値は世帯人員を補助変数とする比推定法により、次のように算定した。

$$Z = P \times \frac{\sum Z_i}{\sum P_i} \times \frac{\sum X_i}{\sum Y_i}$$

○身体障害者

$$= 816.94 \times \sum X_i \doteq 3,483,000 \text{ (人)}$$

○身体障害児

$$= 309.31 \times \sum X_i \doteq 93,100 \text{ (人)}$$

Z : 当該属性をもつ人員の全国推計値

P_i : i 標本地区内の総世帯員数（総人数）

Z_i : i 標本地区内の当該属性をもつとして調査の対象となった世帯員総数（調査対象者数）

Y_i : Z_iのうち回答のあった世帯員数（有効回答人数（集計非該当含む））

X_i : Y_iのうち集計対象世帯員数（有効回答のうちの集計対象該当数）

P : 全国推計人口（平成18年7月1日現在）

7 利用上の注意

この結果の概要における推計値算出に当たって、身体障害者は推計値の100の位を、身体障害児は推計値の10の位を、また、構成割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、必ずしも総数と一致しないものがあることに留意されたい。

II 調査結果の概要

1 身体障害児・者の状況

(1) 身体障害児・者数（推計値）

①身体障害者数

○平成18年7月1日現在、全国の身体障害者数（在宅）は、**3,483,000人**と推計される。

○前回調査（平成13年6月）の3,245,000人と比較すると、238,000人（7.3%）増加している。

※ このうち63.5%が65歳以上であり、介護保険サービスを利用する者が多いと考えられる。

また、平成18年9月の身体障害者ホームヘルプの利用実人員は68,403人、身体障害者デイサービスの利用実人員は26,352人となっている（平成18年社会福祉施設等調査）。

表1 障害の種類別にみた身体障害者数の推移

年次	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害	(再掲) 重複障害
推計数（単位：千人）						
昭和26年	512	121	100	291	—	—
30年	785	179	130	476	—	—
35年	829	202	141	486	—	44
40年	1,048	234	204	610	—	215
45年	1,314	250	235	763	66	121
55年	1,977	336	317	1,127	197	150
62年	2,413	307	354	1,460	292	156
平成3年	2,722	353	358	1,553	458	121
8年	2,933	305	350	1,657	621	179
13年	3,245	301	346	1,749	849	175
18年	3,483	310	343	1,760	1,070	310
構成比（単位：%）						
昭和26年	100.0	23.6	19.5	56.8	—	—
30年	100.0	22.8	16.6	60.6	—	—
35年	100.0	24.4	17.0	58.6	—	5.3
40年	100.0	22.3	19.5	58.2	—	20.5
45年	100.0	19.0	17.9	58.1	5.0	9.2
55年	100.0	17.0	16.0	57.0	10.0	7.6
62年	100.0	12.7	14.7	60.5	12.1	6.5
平成3年	100.0	13.0	13.2	57.1	16.8	4.4
8年	100.0	10.4	11.9	56.5	21.2	6.1
13年	100.0	9.3	10.7	53.9	26.2	5.4
18年	100.0	8.9	9.8	50.5	30.7	8.9
対前回比（単位：%）						
昭和26年	—	—	—	—	—	—
30年	153.3	147.9	130.0	163.6	—	—
35年	105.6	112.8	108.5	102.1	—	—
40年	126.4	115.8	144.7	125.5	—	488.6
45年	125.4	106.8	115.2	125.1	—	56.3
55年	150.5	134.4	134.9	147.7	298.5	124.0
62年	122.1	91.4	111.7	129.5	148.2	104.0
平成3年	112.8	115.0	101.1	106.4	156.8	77.6
8年	107.8	86.4	97.8	106.7	135.6	147.9
13年	110.6	98.7	98.9	105.6	136.7	97.8
18年	107.3	103.0	99.1	100.6	126.0	177.1

表2 障害の種類別にみた身体障害者数

(単位：千人)

	平成13年	平成18年	対前回比
総数	3,245 (100.0)	3,483 (100.0)	107.3%
視覚障害	301 (9.3)	310 (8.9)	103.0%
聴覚・言語障害	346 (10.7)	343 (9.8)	99.1%
聴覚障害	305 (9.4)	276 (7.9)	90.5%
平衡機能障害	7 (0.2)	25 (0.7)	357.1%
音声・言語そしゃく 機能障害	34 (1.0)	42 (1.2)	123.5%
肢体不自由	1,749 (53.9)	1,760 (50.5)	100.6%
上肢切断	98 (3.0)	82 (2.4)	83.7%
上肢機能障害	479 (14.8)	444 (12.7)	92.7%
下肢切断	49 (1.5)	60 (1.7)	122.4%
下肢機能障害	563 (17.4)	627 (18.0)	111.4%
体幹機能障害	167 (5.1)	153 (4.4)	91.6%
脳原性全身性運動 機能障害	60 (1.8)	58 (1.7)	96.7%
全身性運動機能障害 (多肢及び体幹)	333 (10.3)	337 (9.7)	101.2%
内部障害	849 (26.2)	1,070 (30.7)	126.0%
心臓機能障害	463 (14.3)	595 (17.1)	128.5%
呼吸器機能障害	89 (2.7)	97 (2.8)	109.0%
じん臓機能障害	202 (6.2)	234 (6.7)	115.8%
ぼうこう・直腸機能障害	91 (2.8)	135 (3.9)	148.4%
小腸機能障害	3 (0.1)	8 (0.2)	266.7%
ヒト免疫不全ウイルス による免疫機能障害	2 (0.1)	1 (0.1)	50.0%
(再掲) 重複障害	175 (5.4)	310 (8.9)	177.1%

() 内は構成比 (%)

図1 障害の種類別にみた身体障害者数の推移

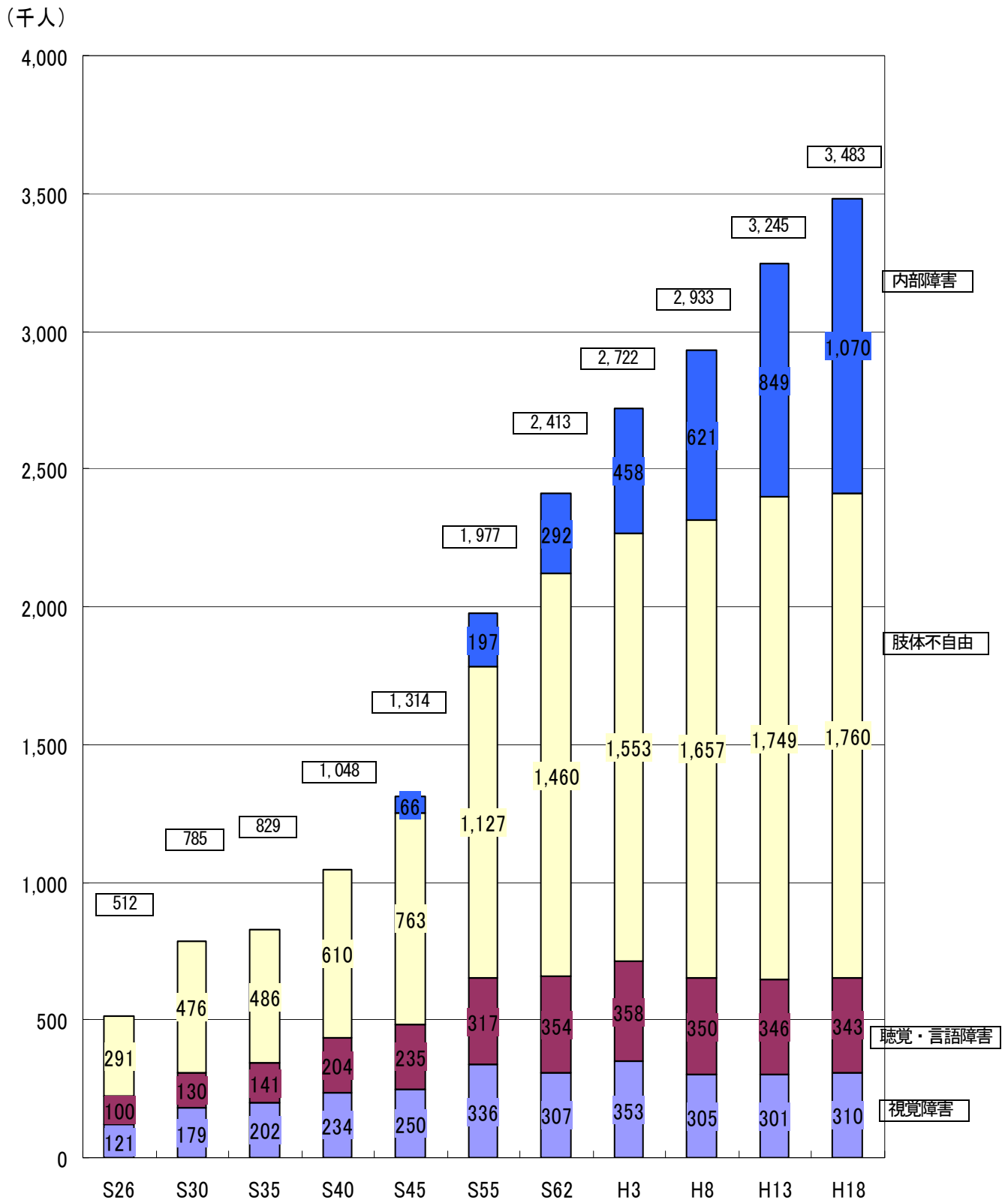


図2 障害の種類別にみた身体障害者数

(総数 : 3,483,000 人)

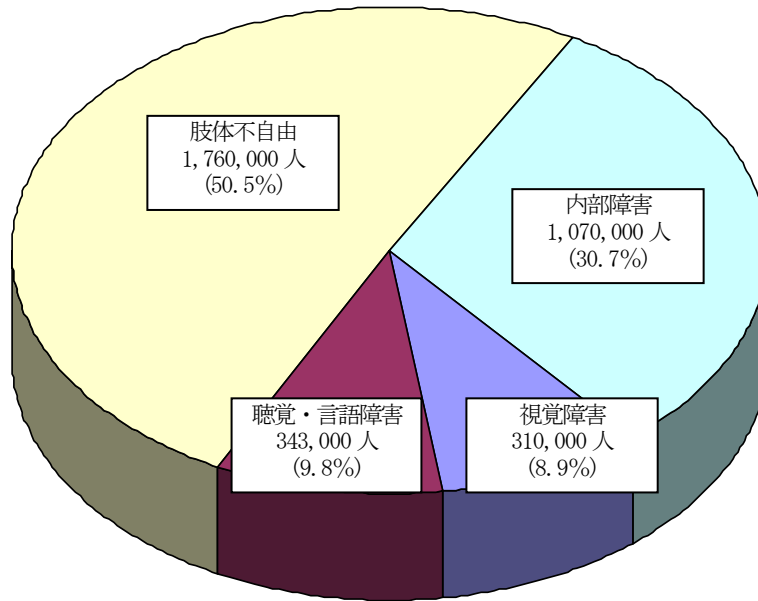
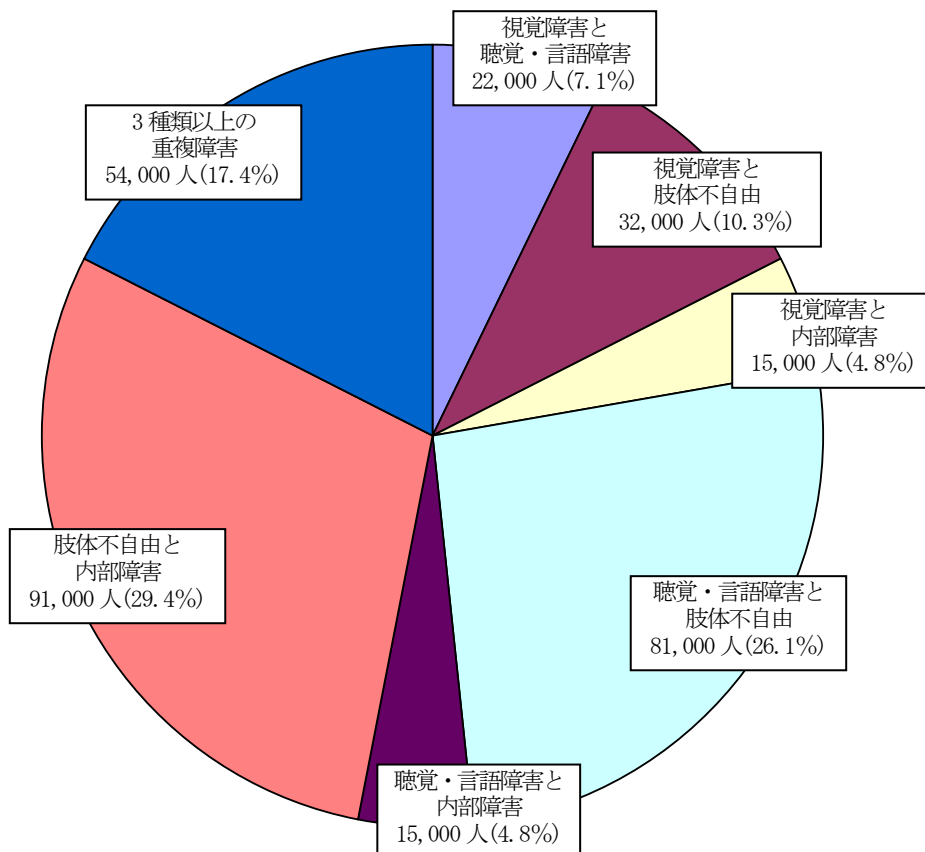


図3 障害の組み合わせ別にみた重複障害の状況 (身体障害者)

(総数 : 310,000 人)



②身体障害児数

○平成18年7月1日現在、全国の18歳未満の身体障害児数（在宅）は、**93,100人**と推計される。

○前回（平成13年6月）調査の推計数と比較すると、11,200人（13.7%）増加している。

○障害の種類別にみると、視覚障害が4,900人、聴覚・言語障害が17,300人、肢体不自由が50,100人、内部障害が20,700人であり、肢体不自由児が身体障害児総数の約6割を占めている。

表3 障害の種類別にみた身体障害児数の推移

年次	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害	(再掲) 重複障害
推 計 数 (単 位: 人)						
40年	116,600	14,400	26,000	76,200	—	41,400
45年	93,800	7,000	23,700	57,500	5,600	12,600
62年	92,500	5,800	13,600	53,300	19,800	6,600
平成3年	81,000	3,900	11,200	48,500	17,500	6,300
8年	81,600	5,600	16,400	41,400	18,200	3,900
13年	81,900	4,800	15,200	47,700	14,200	6,000
18年	93,100	4,900	17,300	50,100	20,700	15,200
構 成 比 (単 位: %)						
40年	100.0	12.3	22.3	65.4	—	35.2
45年	100.0	7.5	25.3	61.3	6.0	13.4
62年	100.0	6.3	14.7	57.6	21.4	7.1
平成3年	100.0	4.8	13.8	59.9	21.6	7.8
8年	100.0	6.9	20.1	50.7	22.3	4.8
13年	100.0	5.9	18.6	58.2	17.3	7.3
18年	100.0	5.3	18.6	53.8	22.2	16.3
対 前 回 比 (単 位: %)						
40年	—	—	—	—	—	—
45年	80.5	48.6	91.2	75.5	—	30.7
62年	98.6	82.9	57.4	92.7	353.6	52.4
平成3年	87.6	67.2	82.4	91.0	88.4	95.5
8年	100.7	143.6	146.4	85.4	104.0	61.9
13年	100.4	85.7	92.7	115.2	78.0	153.8
18年	113.7	102.1	113.8	105.0	145.8	253.3

表4 障害の種類別にみた身体障害児数

(単位：人)

	平成13年	平成18年	対前回比
総数	81,900 (100.0)	93,100 (100.0)	113.7%
視覚障害	4,800 (5.9)	4,900 (5.3)	102.1%
聴覚・言語障害	15,200 (18.6)	17,300 (18.6)	113.8%
聴覚障害	14,700 (17.9)	15,800 (17.0)	107.5%
平衡機能障害	— (—)	— (—)	—%
音声・言語そしゃく 機能障害	500 (0.6)	1,500 (1.6)	300.0%
肢体不自由	47,700 (58.2)	50,100 (53.8)	105.0%
上肢切断	1,400 (1.8)	300 (0.3)	21.4%
上肢機能障害	9,400 (11.5)	11,800 (12.7)	125.5%
下肢切断	200 (0.3)	900 (1.0)	450.0%
下肢機能障害	11,100 (13.5)	7,100 (7.6)	64.0%
体幹機能障害	8,400 (10.3)	8,400 (9.0)	100.0%
脳原性全身性運動 機能障害	9,600 (11.8)	11,400 (12.2)	118.8%
全身性運動機能障害 (多肢及び体幹)	7,500 (9.1)	10,200 (11.0)	136.0%
内部障害	14,200 (17.3)	20,700 (22.2)	145.8%
心臓機能障害	10,800 (13.2)	15,200 (16.3)	140.7%
呼吸器機能障害	1,000 (1.2)	1,900 (2.0)	190.0%
じん臓機能障害	500 (0.6)	1,500 (1.6)	300.0%
ぼうこう・直腸機能障害	1,700 (2.1)	1,200 (1.3)	70.6%
小腸機能障害	— (—)	600 (0.6)	—%
ヒト免疫不全ウイルス による免疫機能障害	200 (0.3)	300 (0.3)	150.0%
(再掲) 重複障害	6,000 (7.3)	15,200 (16.3)	253.3%

() 内は構成比 (%)

図4 障害の種類別にみた身体障害児数の推移

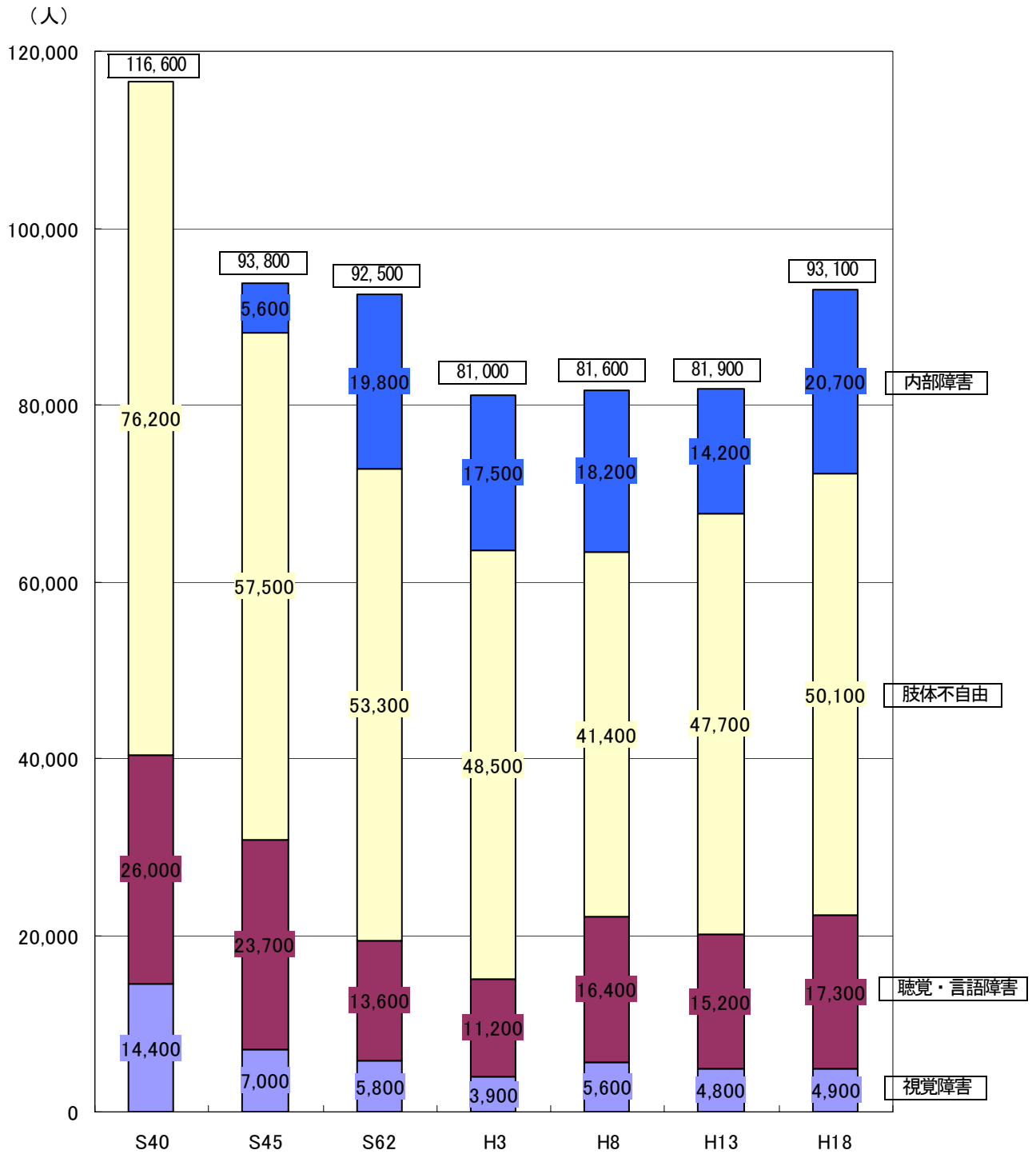


図5 障害の種類別にみた身体障害児数

(総数 : 93,100 人)

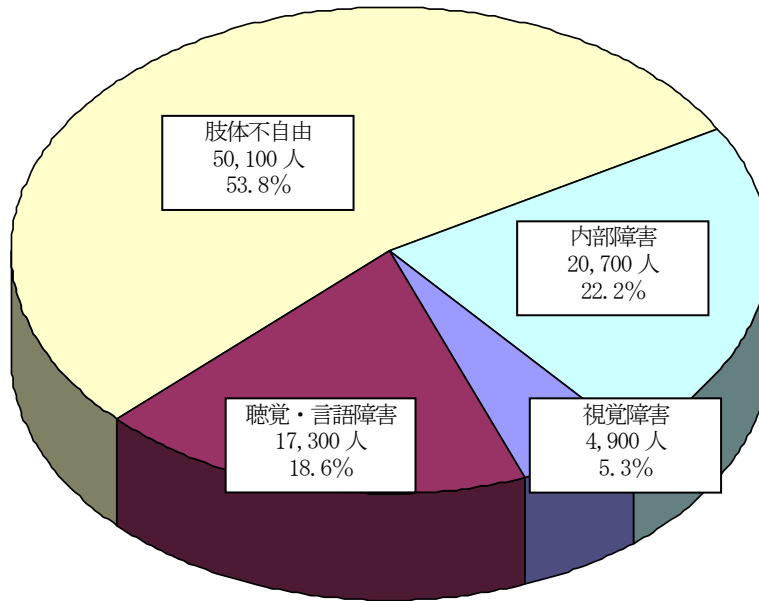
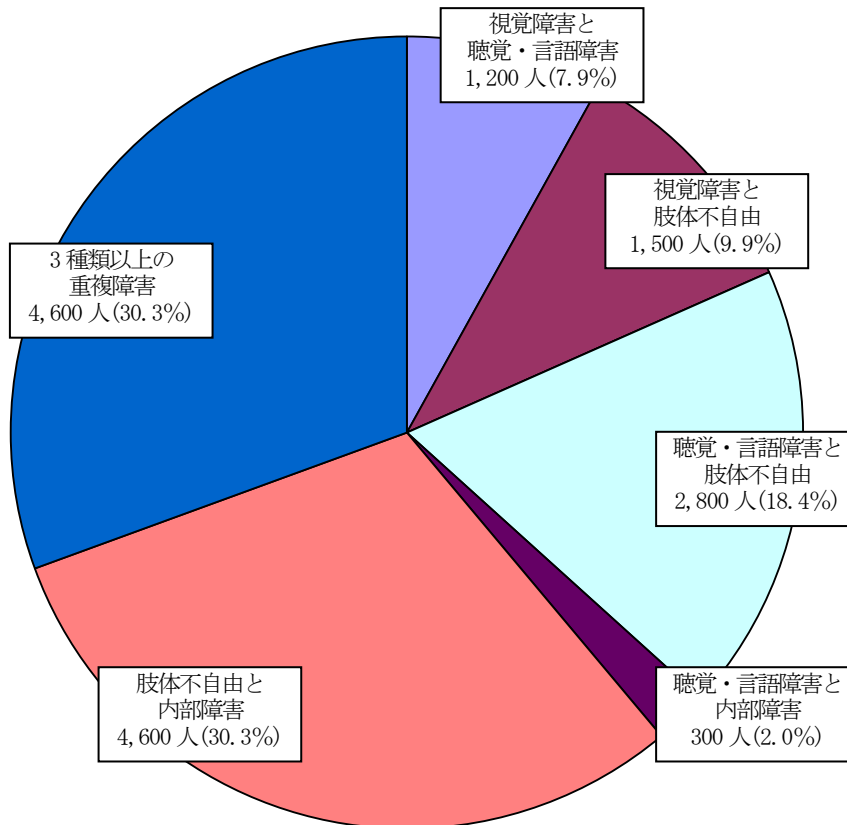


図6 障害の組み合わせ別にみた重複障害の状況 (身体障害児)

(総数 : 15,200 人)



(2) 年齢階級別の身体障害児・者数

①身体障害者

○年齢階級別に身体障害者数の推移を見ると、60歳以上の増加が顕著であり、前回に比べ238,000人(10.1%)増加している。

表5 障害の種類・年齢階級別にみた身体障害者数

(単位：千人)

	総数	年齢階級(歳)								
		18・19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～	不詳
平成18年	3,483 (100.0)	12 (0.3)	65 (1.9)	114 (3.3)	182 (5.2)	470 (13.5)	394 (11.3)	436 (12.5)	1,775 (51.0)	35 (1.0)
平成13年	3,245 (100.0)	11 (0.3)	70 (2.2)	93 (2.9)	213 (6.6)	468 (14.4)	363 (11.2)	522 (16.1)	1,482 (45.7)	22 (0.7)
対前年比(%)	107.3	109.1	92.9	122.6	85.4	100.4	108.5	83.5	119.8	159.1
平成18年内訳										
視覚障害	310 (100.0)	1 (0.3)	5 (1.6)	12 (3.9)	21 (6.8)	46 (14.8)	33 (10.6)	33 (10.6)	153 (49.4)	6 (1.9)
聴覚・言語 障害	343 (100.0)	2 (0.6)	7 (2.0)	18 (5.2)	20 (5.8)	24 (7.0)	33 (9.6)	34 (9.9)	198 (57.7)	7 (2.0)
肢体不自由	1,760 (100.0)	7 (0.4)	44 (2.5)	63 (3.6)	101 (5.7)	256 (14.5)	197 (11.2)	220 (12.5)	857 (48.7)	16 (0.9)
内部障害	1,070 (100.0)	3 (0.3)	8 (0.7)	20 (1.9)	40 (3.7)	145 (13.6)	130 (12.1)	150 (14.0)	568 (53.1)	8 (0.7)
(再掲) 重複障害	310 (100.0)	5 (1.6)	9 (2.9)	8 (2.6)	14 (4.5)	31 (10.0)	36 (11.6)	36 (11.6)	167 (53.9)	3 (1.0)

()内は構成比(%)

②身体障害児

○年齢の上昇に従って、年齢ごとの身体障害児数が増加する傾向が見られる。

表6 障害の種類・年齢階級別にみた身体障害児数

(単位：人)

	総 数	年 齢 階 級 別 (歳)				
		0～4	5～9	10～14	15～17	不 詳
平成18年	93,100 (100.0)	17,000 (18.3)	23,800 (25.6)	31,900 (34.3)	20,400 (21.9)	— (—)
平成13年	81,900 (100.0)	13,500 (16.5)	23,100 (28.2)	28,900 (35.3)	15,400 (18.8)	1,000 (1.2)
対前回比 (%)	113.7	125.9	103.0	110.4	132.5	—
平成18年内訳						
視覚障害	4,900 (100.0)	300 (6.1)	1,500 (30.6)	2,200 (44.9)	900 (18.4)	— (—)
聴覚・言語 障 害	17,300 (100.0)	2,800 (16.2)	5,300 (30.6)	5,300 (30.6)	4,000 (23.1)	— (—)
肢体不自由	50,100 (100.0)	9,900 (19.8)	11,800 (23.6)	16,100 (32.1)	12,400 (24.8)	— (—)
内部障害	20,700 (100.0)	4,000 (19.3)	5,300 (25.6)	8,400 (40.6)	3,100 (15.0)	— (—)
(再掲) 重複障害	15,200 (100.0)	3,100 (20.4)	4,300 (28.3)	4,900 (32.2)	2,800 (18.4)	— (—)

() 内は構成比 (%)

③年齢階級別の身体障害児・者数（まとめ）

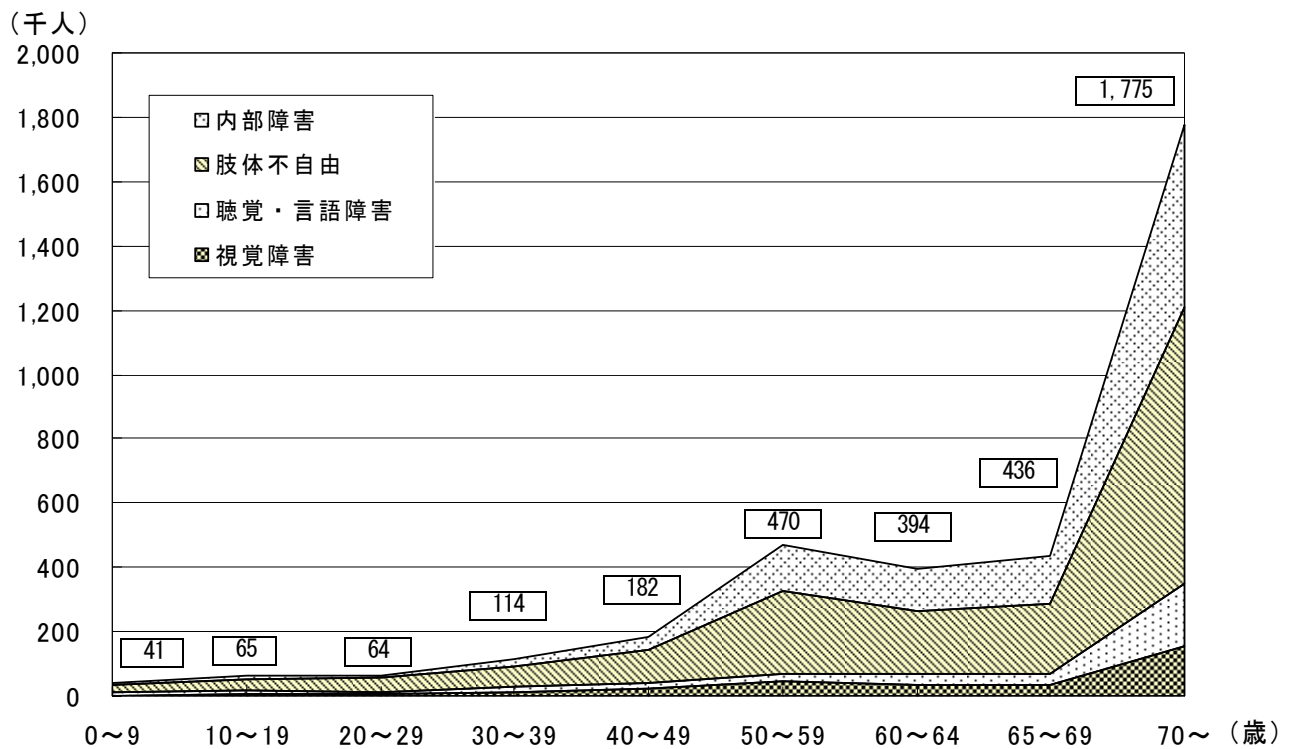
○身体障害児・者の人口割合は、人口1,000人に対して28.0人であり、前回調査に比べて6.9%の増加である。
また、年齢階級別にみた身体障害者の人口割合は高年齢になるほど高くなることわかる。

表7 年齢階級別にみた身体障害児・者の人口割合（人口千対）

（単位：人）

	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
平成18年	28.0	3.2	4.4	4.1	6.1	11.6	24.4	48.9	58.3	94.9
平成13年	26.2	3.1	4.0	3.9	5.4	13.0	24.2	46.5	72.1	96.2
対前回比	106.9%	103.2%	110.0%	105.1%	113.0%	89.2%	100.8%	105.2%	80.9%	98.6%

図7 年齢階級別にみた身体障害児・者数の分布



(3) 身体障害の程度（等級）

①身体障害者

○身体障害の程度についてみると、1・2級の重い障害を有する身体障害者は1,675,000人で、身体障害者総数の48.1%を占め、前回調査の45.1%に比べてその割合が増加している。

○障害の種類別に1・2級をみると、視覚障害では192,000人(62.0%)、聴覚・言語障害では112,000人(32.7%)、肢体不自由では761,000人(43.2%)、内部障害では610,000人(57.0%)となっている。

表8 障害の種類別にみた身体障害の程度（身体障害者）

(単位：千人)

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明
平成18年	3,483 (100.0)	1,171 (33.6)	504 (14.5)	580 (16.7)	713 (20.5)	225 (6.5)	175 (5.0)	115 (3.3)
平成13年	3,245 (100.0)	850 (26.2)	614 (18.9)	602 (18.6)	660 (20.3)	260 (8.0)	216 (6.7)	45 (1.4)
対前回比 (%)	107.3	137.8	82.1	96.3	108.0	86.5	81.0	257.8
平成18年内訳								
視覚障害	310 (100.0)	110 (35.5)	82 (26.5)	19 (6.1)	29 (9.4)	32 (10.3)	26 (8.4)	12 (3.9)
聴覚・言語 障害	343 (100.0)	15 (4.4)	97 (28.3)	73 (21.3)	50 (14.5)	3 (0.9)	77 (22.4)	29 (8.5)
肢体不自由	1,760 (100.0)	449 (25.5)	312 (17.7)	293 (16.6)	392 (22.3)	190 (10.8)	72 (4.1)	52 (3.0)
内部障害	1,070 (100.0)	597 (55.8)	13 (1.2)	195 (18.2)	243 (22.7)	— (—)	— (—)	22 (2.1)
(再掲) 重複障害	310 (100.0)	151 (48.7)	72 (23.2)	32 (10.3)	21 (6.8)	6 (1.9)	7 (2.3)	21 (6.8)

()内は構成比 (%)

②身体障害児

○身体障害の程度についてみると、1・2級の重度の障害を有する身体障害児は61,300人で、身体障害児総数の65.8%を占めている。

○障害の種類別に1・2級をみると、視覚障害では3,700人(75.5%)、聴覚・言語障害では7,100人(41.0%)、肢体不自由では39,900人(79.7%)、内部障害では10,500人(50.7%)となっている。

表9 障害の種類別にみた身体障害の程度(身体障害児)

(単位:人)

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明
平成18年	93,100 (100.0)	46,100 (49.5)	15,200 (16.3)	15,200 (16.3)	7,700 (8.3)	1,500 (1.6)	2,200 (2.4)	5,300 (5.7)
平成13年	81,900 (100.0)	31,100 (38.0)	21,200 (25.9)	11,800 (14.4)	7,700 (9.4)	2,400 (2.9)	4,600 (5.6)	3,100 (3.8)
対前回比(%)	113.7	148.2	71.7	128.8	100.0	62.5	47.8	171.0
平成18年内訳								
視覚障害	4,900 (100.0)	3,700 (75.5)	— (—)	300 (6.1)	600 (12.4)	— (—)	— (—)	300 (6.1)
聴覚・言語 障害	17,300 (100.0)	1,200 (6.9)	5,900 (34.1)	4,300 (24.9)	2,800 (16.2)	— (—)	1,500 (8.7)	1,500 (8.7)
肢体不自由	50,100 (100.0)	30,900 (61.7)	9,000 (18.0)	4,300 (8.6)	1,900 (3.8)	1,500 (3.0)	600 (1.2)	1,900 (3.8)
内部障害	20,700 (100.0)	10,200 (49.3)	300 (1.4)	6,200 (30.0)	2,500 (12.1)	— (—)	— (—)	1,500 (7.2)
(再掲) 重複障害	15,200 (100.0)	9,600 (63.2)	2,500 (16.4)	900 (5.9)	600 (3.9)	300 (2.0)	300 (2.0)	900 (5.9)

()内は構成比(%)

図8 障害程度別にみた身体障害者数

(総数 : 3,483,000 人)

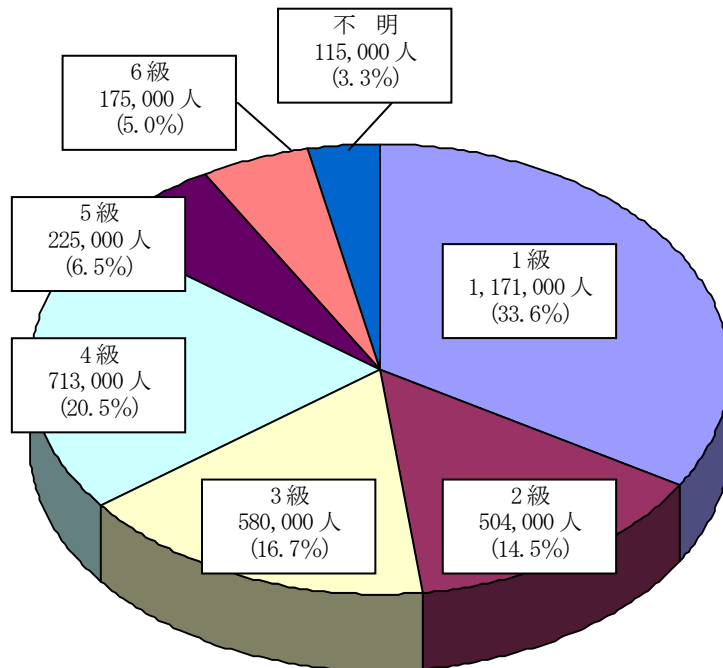
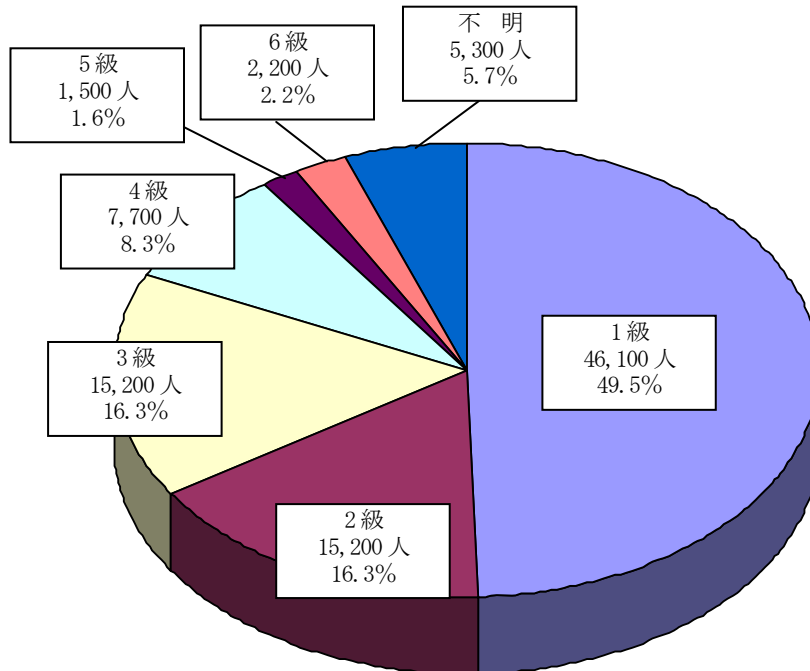


図9 障害程度別にみた身体障害児数

(総数 : 93,100 人)



(4) 身体障害の原因

①身体障害者

○身体障害の原因についてみると、疾患によるものが20.7%、事故によるものが9.8%、加齢によるものが4.8%、出生時の損傷によるものが2.3%である。

表 10 障害の種類別にみた身体障害の原因（身体障害者）

（単位：千人）

	総 数	事 故					疾 患			
		交通 事故	労働 災害	その他の 事 故	戦傷病 ・戦災	小 計	感染症	中毒性 疾 患	その他 の疾患	小 計
平成 18 年	3,483 (100.0)	106 (3.0)	113 (3.2)	100 (2.9)	21 (0.6)	341 (9.8)	58 (1.7)	8 (0.2)	656 (18.8)	722 (20.7)
平成 13 年	3,245 (100.0)	144 (4.4)	204 (6.3)	150 (4.6)	55 (1.7)	553 (17.0)	76 (2.3)	13 (0.4)	760 (23.4)	849 (26.2)
対前回比 (%)	107.3	73.6	55.4	66.7	38.2	61.7	76.3	61.5	86.3	85.0
平成 18 年内訳										
視覚障害	310 (100.0)	11 (3.5)	2 (0.6)	8 (2.6)	3 (1.0)	25 (8.1)	4 (1.3)	1 (0.3)	56 (18.1)	61 (19.7)
聴覚・言語 障 害	343 (100.0)	6 (1.7)	3 (0.9)	6 (1.7)	2 (0.6)	17 (5.0)	3 (0.9)	— (—)	47 (13.7)	51 (14.9)
肢体不自由	1,760 (100.0)	89 (5.1)	96 (5.5)	86 (4.9)	14 (0.8)	284 (16.1)	36 (2.0)	2 (0.1)	356 (20.2)	394 (22.4)
内部障害	1,070 (100.0)	1 (0.1)	11 (1.0)	1 (0.1)	2 (0.2)	15 (1.4)	15 (1.4)	6 (0.6)	196 (18.3)	216 (20.2)

出生時の 損 傷	加齢	その他	不 明	不 詳
79 (2.3)	166 (4.8)	356 (10.2)	446 (12.8)	1,372 (39.4)
145 (4.5)	154 (4.7)	349 (10.8)	461 (14.2)	734 (22.6)
54.5	107.8	102.0	96.7	186.9
14 (4.5)	7 (2.0)	41 (13.2)	58 (18.7)	105 (33.9)
7 (2.0)	29 (8.5)	29 (8.5)	51 (15.0)	160 (46.7)
53 (3.0)	70 (4.0)	145 (8.2)	163 (9.3)	651 (37.0)
6 (0.6)	60 (5.6)	142 (13.3)	174 (16.3)	457 (42.7)

() 内は構成比 (%)

②身体障害児

○身体障害の原因についてみると、出生時の損傷によるものが19.2%、疾患によるものが9.9%、事故によるものが2.9%である。

表 11 障害の種類別にみた身体障害の原因（身体障害児）

（単位：人）

	総 数	事 故			疾 患				出生時の 損傷	その他
		交通 事故	その他の 事故	小 計	感染症	中毒性 疾患	その他の 疾患	小 計		
平成 18 年	93,100 (100.0)	1,200 (1.3)	1,500 (1.6)	2,700 (2.9)	1,500 (1.6)	300 (0.3)	7,400 (7.9)	9,200 (9.9)	17,900 (19.2)	16,700 (17.9)
平成 13 年	81,900 (100.0)	1,000 (1.2)	1,000 (1.2)	2,000 (2.4)	2,400 (2.9)	500 (0.6)	9,200 (11.2)	12,100 (14.8)	14,200 (17.3)	13,700 (16.7)
対前回比 (%)	113.7	120.0	150.0	135.0	62.5	60.0	80.4	76.0	126.1	121.9
平成 18 年内訳										
視覚障害	4,900 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	300 (6.1)	— (—)	300 (6.1)	600 (12.2)	600 (12.2)	1,200 (24.5)
聴覚・言語 障 害	17,300 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	600 (3.5)	600 (3.5)	1,500 (8.7)	900 (5.2)
肢体不自由	50,100 (100.0)	1,200 (2.4)	1,500 (3.0)	2,700 (5.4)	900 (1.8)	— (—)	4,900 (9.8)	5,800 (11.6)	14,200 (28.3)	10,200 (20.4)
内部障害	20,700 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	300 (1.4)	300 (1.4)	1,500 (7.2)	2,100 (10.1)	1,500 (7.2)	4,300 (20.8)

不 明	不 詳
32,200 (34.6)	14,200 (15.3)
30,800 (37.6)	9,200 (11.2)
104.5	154.3
1,500 (30.6)	900 (18.4)
9,600 (55.5)	4,600 (26.6)
11,800 (23.6)	5,300 (10.6)
9,300 (44.9)	3,400 (16.4)

() 内は構成比 (%)

(5) 身体障害の原因となった疾患

①身体障害者

○身体障害者の原因を疾患別にみると、心臓疾患（10.1%）、脳血管障害（7.8%）の割合が高い。

表12 障害の種類別にみた身体障害の原因疾患（身体障害者）

（単位：千人）

	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害	(再掲)重複障害
総数	3,483 (100.0)	310 (100.0)	343 (100.0)	1,760 (100.0)	1,070 (100.0)	310 (100.0)
脳性まひ	54 (1.6)	4 (1.3)	— (—)	50 (2.8)	— (—)	11 (3.5)
脊髄性小児まひ	43 (1.2)	— (—)	2 (0.6)	42 (2.4)	— (—)	5 (1.6)
脊髄損傷Ⅰ（対まひ）	33 (1.0)	1 (0.3)	1 (0.3)	31 (1.8)	1 (0.1)	5 (1.6)
脊髄損傷Ⅱ（四肢まひ）	24 (0.7)	— (—)	1 (0.3)	23 (1.3)	— (—)	2 (0.6)
進行性筋萎縮性疾患	21 (0.8)	— (—)	2 (0.6)	20 (1.1)	— (—)	2 (0.6)
脳血管障害	273 (7.8)	7 (2.3)	11 (3.2)	254 (14.4)	— (—)	51 (16.5)
脳挫傷	11 (0.3)	2 (0.6)	1 (0.3)	9 (0.5)	— (—)	2 (0.6)
その他の脳神経疾患	73 (2.1)	6 (1.9)	9 (2.6)	57 (3.2)	1 (0.1)	16 (5.2)
骨関節疾患	238 (6.8)	— (—)	2 (0.6)	234 (13.3)	2 (0.2)	10 (3.2)
リウマチ性疾患	97 (2.8)	— (—)	1 (0.3)	94 (5.3)	2 (0.2)	7 (2.3)
中耳性疾患	32 (0.9)	1 (0.3)	27 (7.9)	2 (0.1)	2 (0.2)	1 (0.3)
内耳性疾患	45 (1.3)	— (—)	43 (12.5)	— (—)	2 (0.2)	8 (2.6)
角膜疾患	19 (0.5)	19 (6.1)	— (—)	— (—)	— (—)	6 (1.9)
水晶体疾患	11 (0.3)	11 (3.5)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (0.3)
網脈絡膜・視神経系疾患	84 (2.4)	82 (26.5)	— (—)	2 (0.1)	1 (0.1)	7 (2.3)
じん臓疾患	163 (4.7)	2 (0.6)	— (—)	— (—)	161 (15.0)	14 (4.5)
心臓疾患	350 (10.0)	1 (0.3)	— (—)	1 (0.1)	349 (32.6)	11 (3.5)
呼吸器疾患	56 (1.6)	1 (0.3)	3 (0.9)	1 (0.1)	51 (4.8)	6 (1.9)
ぼうこう疾患	20 (0.6)	— (—)	— (—)	— (—)	20 (1.9)	1 (0.3)
大腸疾患	51 (1.5)	— (—)	— (—)	1 (0.1)	51 (4.8)	— (—)
小腸疾患	4 (0.1)	— (—)	— (—)	— (—)	4 (0.4)	— (—)
後天性免疫不全症候群	2 (0.1)	— (—)	1 (0.3)	— (—)	1 (0.1)	— (—)
その他	286 (8.2)	48 (15.5)	35 (10.2)	181 (10.3)	21 (2.0)	21 (6.8)
不明	78 (2.2)	14 (4.5)	30 (8.7)	30 (1.7)	3 (0.3)	7 (2.3)
不詳	1,414 (40.6)	112 (36.1)	175 (51.0)	728 (41.4)	399 (37.3)	118 (38.1)

() 内は構成比 (%)

②身体障害児

○身体障害児の原因を疾患別にみると、脳性まひ（25.9%）、心臓疾患（13.3%）の割合が高い。

表 13 障害の種類別にみた身体障害の原因疾患（身体障害児）

（単位：人）

	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害	(再掲)重複障害
総数	93,100 (100.0)	4,900 (100.0)	17,300 (100.0)	50,100 (100.0)	20,700 (100.0)	15,200 (100.0)
脳性まひ	24,100 (25.9)	300 (6.1)	— (—)	23,800 (47.5)	— (—)	3,400 (22.4)
脊髄性小児まひ	300 (0.3)	— (—)	— (—)	300 (0.6)	— (—)	300 (0.2)
脊髄損傷Ⅰ（対まひ）	900 (1.0)	— (—)	— (—)	600 (1.2)	300 (1.4)	300 (0.2)
脊髄損傷Ⅱ（四肢まひ）	600 (0.6)	— (—)	— (—)	600 (1.2)	— (—)	300 (0.2)
進行性筋萎縮性疾患	1,500 (1.6)	— (—)	— (—)	1,500 (3.0)	— (—)	— (—)
脳血管障害	900 (1.0)	— (—)	— (—)	900 (1.8)	— (—)	— (—)
脳挫傷	300 (0.3)	— (—)	— (—)	300 (0.6)	— (—)	— (—)
その他の脳神経疾患	3,700 (4.0)	300 (6.1)	300 (1.7)	2,800 (5.6)	300 (1.4)	300 (0.2)
骨関節疾患	600 (0.6)	— (—)	— (—)	600 (1.2)	— (—)	— (—)
中耳性疾患	300 (0.3)	— (—)	300 (1.7)	— (—)	— (—)	— (—)
内耳性疾患	3,700 (4.0)	— (—)	3,700 (21.4)	— (—)	— (—)	300 (0.2)
角膜疾患	300 (0.3)	— (—)	300 (1.7)	— (—)	— (—)	— (—)
水晶体疾患	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
網脈絡膜・視神経系疾患	1,900 (2.0)	1,900 (38.8)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
じん臓疾患	1,200 (1.3)	— (—)	— (—)	— (—)	1,200 (5.8)	— (—)
心臓疾患	12,400 (13.3)	— (—)	— (—)	— (—)	12,400 (59.9)	900 (5.9)
呼吸器疾患	300 (0.3)	— (—)	— (—)	— (—)	300 (1.4)	300 (0.2)
ぼうこう疾患	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
大腸疾患	300 (0.3)	— (—)	— (—)	— (—)	300 (1.4)	— (—)
小腸疾患	300 (0.3)	— (—)	— (—)	— (—)	300 (1.4)	— (—)
後天性免疫不全症候群	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
その他	16,400 (17.6)	1,200 (24.5)	4,600 (26.6)	9,000 (18.0)	1,500 (7.2)	3,400 (22.4)
不明	4,600 (5.0)	600 (12.2)	1,500 (8.7)	1,900 (3.8)	600 (2.9)	1,200 (7.9)
不詳	18,200 (19.5)	600 (12.2)	6,500 (37.6)	7,700 (15.4)	3,400 (16.4)	4,300 (28.3)

（ ）内は構成比（%）

※ 以降は、実際の回答数（身体障害者は有効回答4, 263人、身体障害児は有効回答301人）に基づく集計結果である。

(6) 同居者の有無（身体障害者）

○同居者のいる身体障害者は84.7%である。

表14 障害の種類別にみた同居者の有無

	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	4,263 (100.0)	379 (100.0)	420 (100.0)	2,154 (100.0)	1,310 (100.0)
同居者あり	3,611 (84.7)	301 (79.4)	350 (83.3)	1,820 (84.5)	1,140 (87.0)
同居者なし	464 (10.9)	57 (15.0)	43 (10.2)	239 (11.1)	125 (9.5)
不詳	188 (4.4)	21 (5.5)	27 (6.4)	95 (4.4)	45 (3.4)

() 内は構成比 (%)

表15 年齢階級別にみた同居者の有無

	総数	年齢階級別							年齢不詳
		18・19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
総数	4,263 (100.0)	15 (100.0)	79 (100.0)	139 (100.0)	223 (100.0)	575 (100.0)	1,016 (100.0)	2,174 (100.0)	42 (100.0)
同居者あり	3,611 (84.7)	15 (100.0)	75 (94.9)	121 (87.1)	194 (87.0)	498 (86.6)	857 (84.4)	1,821 (83.8)	30 (71.4)
同居者なし	464 (10.9)	— (—)	3 (3.8)	12 (8.6)	20 (9.0)	61 (10.6)	121 (11.9)	246 (11.3)	1 (2.4)
不詳	188 (4.4)	— (—)	1 (1.3)	6 (4.3)	9 (4.0)	16 (2.8)	38 (3.7)	107 (4.9)	11 (26.2)

() 内は構成比 (%)

(7) 身体障害者手帳等の所持の状況

①身体障害者

○身体障害者手帳の所持者は96.7%である。

表 16 障害の種類別にみた身体障害者手帳等所持の状況（身体障害者）（複数回答）

	総数	身体障害者手帳 所持	療育手帳 所持	精神障害者保健 福祉手帳所持
総数	4,263 (100.0)	4,123 (96.7)	68 (1.6)	19 (0.4)
視覚障害	379 (100.0)	365 (96.3)	6 (1.6)	3 (0.8)
聴覚・言語障害	420 (100.0)	396 (94.3)	8 (1.9)	3 (0.7)
聴覚障害	338 (100.0)	320 (94.7)	4 (1.2)	2 (0.6)
平衡機能障害	30 (100.0)	28 (93.3)	2 (6.7)	— (—)
音声・言語そしゃく 機能障害	52 (100.0)	48 (92.3)	2 (3.8)	1 (1.9)
肢体不自由	2,154 (100.0)	2,085 (96.8)	41 (1.9)	9 (0.4)
上肢切断	100 (100.0)	98 (98.0)	1 (1.0)	— (—)
上肢機能障害	544 (100.0)	530 (97.4)	11 (2.0)	3 (0.6)
下肢切断	73 (100.0)	71 (97.3)	— (—)	1 (1.4)
下肢機能障害	767 (100.0)	740 (96.5)	4 (0.5)	4 (0.5)
体幹機能障害	187 (100.0)	181 (96.8)	10 (5.3)	— (—)
脳原性全身性運動 機能障害	71 (100.0)	66 (93.0)	7 (9.9)	— (—)
全身性運動機能障害 (多肢及び体幹)	412 (100.0)	399 (96.8)	8 (1.9)	1 (0.2)
内部障害	1,310 (100.0)	1,277 (97.5)	13 (1.0)	4 (0.3)
心臓機能障害	728 (100.0)	714 (98.1)	8 (1.1)	2 (0.3)
呼吸器機能障害	119 (100.0)	113 (95.0)	— (—)	1 (0.8)
じん臓機能障害	287 (100.0)	283 (98.6)	5 (1.7)	— (—)
ぼうこう・直腸機能障害	165 (100.0)	156 (94.5)	— (—)	1 (0.6)
小腸機能障害	10 (100.0)	10 (100.0)	— (—)	— (—)
ヒト免疫不全ウイルス による免疫機能障害	1 (100.0)	1 (100.0)	— (—)	— (—)
(再掲) 重複障害	379 (100.0)	360 (95.0)	14 (3.7)	3 (0.8)

() 内は、障害の種類別総数を100とした場合の割合 (%)

②身体障害児

○身体障害者手帳の所持者は96.7%である。

○身体障害者（18歳以上）と比較して、療育手帳を所持している割合が高い。

表17 障害の種類別にみた身体障害者手帳等所持の状況（身体障害児）（複数回答）

	総数	身体障害者手帳 所持	療育手帳 所持	精神障害者保健 福祉手帳所持
総数	301 (100.0)	291 (96.7)	120 (39.9)	1 (0.3)
視覚障害	16 (100.0)	15 (93.8)	6 (37.5)	— (—)
聴覚・言語障害	56 (100.0)	51 (91.1)	10 (17.9)	— (—)
聴覚障害	51 (100.0)	48 (94.1)	8 (15.7)	— (—)
平衡機能障害	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
音声・言語そしゃく 機能障害	5 (100.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	— (—)
肢体不自由	162 (100.0)	160 (98.8)	89 (54.9)	1 (0.6)
上肢切断	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	— (—)
上肢機能障害	38 (100.0)	37 (97.4)	19 (50.0)	— (—)
下肢切断	3 (100.0)	3 (100.0)	— (—)	— (—)
下肢機能障害	23 (100.0)	23 (100.0)	12 (52.2)	— (—)
体幹機能障害	27 (100.0)	27 (100.0)	16 (59.3)	1 (3.7)
脳原性全身性運動 機能障害	37 (100.0)	36 (97.3)	22 (59.5)	— (—)
全身性運動機能障害 (多肢及び体幹)	33 (100.0)	33 (100.0)	19 (57.6)	— (—)
内部障害	67 (100.0)	65 (97.0)	15 (22.4)	— (—)
心臓機能障害	49 (100.0)	49 (100.0)	10 (20.4)	— (—)
呼吸器機能障害	6 (100.0)	6 (100.0)	3 (50.0)	— (—)
じん臓機能障害	5 (100.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	— (—)
ぼうこう・直腸機能障害	4 (100.0)	4 (100.0)	— (—)	— (—)
小腸機能障害	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	— (—)
ヒト免疫不全ウイルス による免疫機能障害	1 (100.0)	1 (100.0)	— (—)	— (—)
(再掲) 重複障害	49 (100.0)	47 (95.9)	31 (63.3)	— (—)

() 内は、障害の種類別総数を100とした場合の割合 (%)

2 日常生活の状況

(1) 点字の習得及びコミュニケーション手段の状況（身体障害者）

A 点字のできる障害者の状況

○視覚障害者の点字習得状況についてみると、「点字ができる」と答えた者は12.7%である。

また、「点字ができない」が「点字を必要としている」者は6.6%である。

表 18 障害程度別にみた点字習得及び点字必要性の状況

障害の程度	総 数	点字が できる	点字ができない				回答なし
			小 計	点字必要	点字必要なし	回答なし	
総 数	379 (100.0)	48 (12.7)	268 (70.7)	25 (6.6)	231 (60.9)	12 (3.2)	63 (16.6)
1 級	135 (100.0)	34 (25.2)	77 (57.0)	7 (5.2)	63 (46.7)	7 (5.2)	24 (17.8)
2 級	100 (100.0)	13 (13.0)	80 (80.0)	10 (10.0)	69 (69.0)	1 (1.0)	7 (7.0)
3 級	23 (100.0)	— (—)	23 (100.0)	2 (8.7)	21 (91.3)	— (—)	— (—)
4 級	35 (100.0)	1 (2.9)	27 (77.1)	3 (8.6)	23 (65.7)	1 (2.9)	7 (20.0)
5 級	39 (100.0)	— (—)	30 (76.9)	— (—)	29 (74.4)	1 (2.6)	9 (23.1)
6 級	32 (100.0)	— (—)	21 (65.6)	1 (3.1)	18 (56.3)	2 (6.3)	11 (34.4)
不 詳	15 (100.0)	— (—)	10 (66.7)	2 (13.3)	8 (53.3)	— (—)	5 (33.3)

() 内は構成比 (%)

B 聴覚障害者のコミュニケーション手段の状況

○聴覚障害者のうち、69.2%の者が補聴器や人工内耳等の補聴機器を装用している。

表 19 障害の程度別にみた聴覚障害者のコミュニケーション手段の状況（複数回答）

障害の程度	総数	補聴器や人工 内耳等の補聴 機器	筆談・ 要約筆記	読話	手話・ 手話通訳	その他	不詳
総数	338 (100.0)	234 (69.2)	102 (30.2)	32 (9.5)	64 (18.9)	23 (6.8)	20 (5.9)
1級	12 (100.0)	5 (41.7)	7 (58.3)	2 (16.7)	9 (75.0)	1 (8.3)	— (—)
2級	111 (100.0)	57 (51.4)	51 (45.9)	24 (21.6)	43 (38.7)	7 (6.3)	7 (6.3)
3級	54 (100.0)	44 (81.5)	15 (27.8)	1 (1.9)	4 (7.4)	6 (11.1)	2 (3.7)
4級	49 (100.0)	39 (79.6)	8 (16.3)	— (—)	— (—)	3 (6.1)	6 (12.2)
5級	1 (100.0)	1 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
6級	94 (100.0)	80 (85.1)	12 (12.8)	2 (2.1)	1 (1.1)	5 (5.3)	5 (5.3)
不明	17 (100.0)	8 (47.1)	9 (52.9)	3 (17.6)	7 (41.2)	1 (5.9)	— (—)

() 内は構成比 (%)

(2) 情報の入手方法（身体障害者）

○情報の入手方法をみると、「テレビ」が80.2%と最も高く、次いで「一般図書・新聞・雑誌」が61.1%、「家族・友人」が51.3%となっている。

表 20 障害の種類別にみた情報の入手方法（複数回答）

	総 数	視覚障害	聴覚・言語 障 害	肢体不自由	内部障害
総 数	4,263 (100.0)	379 (100.0)	420 (100.0)	2,154 (100.0)	1,310 (100.0)
一般図書・新聞・雑誌	2,605 (61.1)	102 (26.9)	280 (66.7)	1,331 (61.8)	892 (68.1)
録音・点字図書	62 (1.5)	56 (14.8)	1 (0.2)	1 (0.1)	4 (0.3)
ホームページ・電子メール	367 (8.6)	25 (6.6)	36 (8.6)	196 (9.1)	110 (8.4)
携帯電話	366 (8.6)	27 (7.1)	49 (11.7)	205 (9.5)	85 (6.5)
ファックス	173 (4.1)	8 (2.4)	65 (15.5)	56 (2.6)	44 (3.4)
テレビ（一般放送）	3,417 (80.2)	250 (66.0)	314 (74.8)	1,779 (82.6)	1,074 (82.0)
手話放送・字幕放送	77 (1.8)	4 (1.1)	66 (15.7)	5 (0.2)	2 (0.2)
ラジオ	1,188 (27.9)	187 (49.3)	35 (8.3)	589 (27.3)	377 (28.8)
自治体広報	1,189 (27.9)	52 (13.7)	96 (22.9)	620 (28.8)	421 (32.1)
家族・友人	2,187 (51.3)	211 (55.7)	226 (53.8)	1,126 (52.3)	624 (47.6)
その他	190 (4.5)	22 (5.8)	16 (3.8)	98 (4.5)	54 (4.1)

() 内は、障害の種類別の総数を100とした場合の割合 (%)

(3) パソコンの利用状況（身体障害者）

○「毎日利用する」または「たまに利用する」者は、全体の16.3%である。

表21 障害の種類別にみたパソコン利用の状況

	総数	利用する		利用しない		回答なし
		毎日利用する	たまに利用する	ほとんど利用しない	全く利用しない	
総数	4,263 (100.0)	361 (8.5)	334 (7.8)	184 (4.3)	2,744 (64.4)	640 (15.0)
		(16.3)		(68.7)		
視覚障害	379 (100.0)	28 (7.4)	19 (5.0)	12 (3.2)	275 (72.6)	45 (11.9)
		(12.4)		(75.7)		
聴覚・言語障害	420 (100.0)	28 (6.7)	31 (7.4)	12 (2.9)	272 (64.8)	77 (18.3)
		(14.0)		(67.6)		
肢体不自由	2,154 (100.0)	196 (9.1)	162 (7.5)	86 (4.0)	1,397 (64.9)	313 (14.5)
		(16.6)		(68.8)		
内部障害	1,310 (100.0)	109 (8.3)	122 (9.3)	74 (5.6)	800 (61.1)	205 (15.6)
		(17.6)		(66.7)		

() 内は構成比 (%)

○現在、パソコンを「ほとんど利用しない」又は「全く利用しない」と答えた者のうち、パソコンの利用を希望している者は14.7%である

表22 障害の種類別にみたパソコンを利用しない者のパソコン利用希望の状況

	総数	利用したいと思う	利用したいと思わない	わからない	回答なし
総数	2,928 (100.0)	430 (14.7)	1,303 (44.5)	631 (21.6)	564 (19.2)
視覚障害	287 (100.0)	32 (11.1)	131 (45.6)	57 (19.9)	67 (23.3)
聴覚・言語障害	284 (100.0)	27 (9.5)	135 (47.5)	64 (22.5)	58 (20.4)
肢体不自由	1,483 (100.0)	237 (16.0)	645 (43.5)	308 (20.6)	293 (19.8)
内部障害	874 (100.0)	134 (15.3)	392 (44.9)	202 (23.1)	146 (16.8)

() 内は構成比 (%)

(4) 介助の状況

①身体障害者

A 介助の必要度

○日常生活動作における介助の必要度をみると、視覚障害では「外出する」、「日常の買い物をする」等で、肢体不自由では「食事のしたくや後片付けをする」、「身の回りの掃除、整理整頓をする」、「洗濯をする」、「外出する」、「日常の買い物をする」等の動作で介助を必要とする割合が高い。

表 23 障害の種類・日常生活動作別にみた介助の必要度（身体障害者）

		総 数	視覚障害	聴覚・言語 障 害	肢体不自由	内部障害
総 数		4,263 (100.0)	379 (100.0)	420 (100.0)	2,154 (100.0)	1,310 (100.0)
食事をする	一部介助	184 (4.3)	25 (6.6)	9 (2.1)	130 (6.0)	20 (1.5)
	全部介助	163 (3.9)	11 (2.9)	11 (2.6)	130 (6.0)	11 (0.8)
食事のしたくや 後片付けをする	一部介助	342 (8.0)	39 (10.3)	26 (6.2)	201 (9.3)	76 (5.8)
	全部介助	764 (17.9)	66 (17.4)	52 (12.4)	538 (25.0)	108 (8.2)
排泄をする	一部介助	200 (4.7)	11 (2.9)	12 (2.9)	147 (6.8)	30 (2.3)
	全部介助	294 (6.9)	17 (4.5)	20 (4.8)	234 (10.9)	23 (1.8)
入浴をする	一部介助	399 (9.4)	23 (6.1)	28 (6.7)	280 (13.0)	68 (5.2)
	全部介助	522 (12.2)	27 (7.1)	35 (8.3)	401 (18.6)	59 (4.5)
衣服の着脱をする	一部介助	350 (8.2)	19 (5.0)	22 (5.2)	263 (12.2)	46 (3.5)
	全部介助	315 (7.4)	16 (4.2)	21 (5.0)	255 (11.8)	23 (1.8)
身の回りの掃除、 整理整頓をする	一部介助	484 (11.4)	45 (11.9)	25 (6.0)	304 (14.1)	110 (8.4)
	全部介助	652 (15.3)	50 (13.2)	42 (10.0)	479 (22.2)	81 (6.2)
洗濯をする	一部介助	306 (7.2)	31 (8.2)	18 (4.3)	176 (8.2)	81 (6.2)
	全部介助	856 (20.1)	64 (16.9)	61 (14.5)	605 (28.1)	126 (9.6)
寝返りをする	一部介助	136 (3.2)	9 (2.4)	5 (1.2)	102 (4.7)	20 (1.5)
	全部介助	215 (5.0)	9 (2.4)	11 (2.6)	178 (8.2)	17 (1.3)
家の中を移動する	一部介助	187 (4.4)	10 (2.6)	11 (2.6)	139 (6.5)	27 (2.1)
	全部介助	268 (6.3)	18 (4.8)	19 (4.5)	208 (9.7)	23 (1.8)
外出する	一部介助	582 (13.7)	73 (19.3)	40 (9.5)	347 (16.1)	122 (9.3)
	全部介助	723 (17.0)	92 (24.3)	50 (11.9)	486 (22.6)	95 (7.3)
日常の 買い物をする	一部介助	531 (12.5)	66 (17.4)	33 (7.9)	308 (14.3)	124 (9.5)
	全部介助	944 (22.1)	110 (29.0)	63 (15.0)	634 (29.4)	137 (10.5)

() 内は、障害の種類別の総数を100とした場合の割合 (%)

B 主な介助者

○介助者の半数以上は家族であり、そのうち「配偶者」の割合が高い。

表 24 日常生活動作別にみた主な介助者（身体障害者）

種 類	総数	配偶者	親	子ども	その他 の家族	親戚	訪問 介護人	隣人 知人	雇人	ボラン ティア	その他	いない	回答 なし
食事を する	347 (100.0)	117 (33.8)	38 (11.0)	39 (11.2)	10 (2.9)	— (—)	23 (6.6)	— (—)	1 (0.3)	— (—)	28 (8.1)	1 (0.3)	90 (25.9)
		(58.8)				(15.0)							
食事のした くや後片付 けをする	1,106 (100.0)	368 (33.3)	68 (6.1)	153 (13.8)	77 (7.0)	4 (0.4)	78 (7.1)	— (—)	3 (0.3)	— (—)	51 (4.6)	1 (0.1)	303 (27.4)
		(60.2)				(12.3)							
排泄をする	494 (100.0)	149 (30.2)	43 (8.7)	58 (11.7)	23 (4.7)	1 (0.2)	28 (5.7)	— (—)	2 (0.4)	— (—)	46 (9.3)	2 (0.4)	142 (28.7)
		(55.3)				(15.6)							
入浴をする	921 (100.0)	215 (23.3)	45 (4.9)	82 (8.9)	32 (3.5)	2 (0.2)	147 (16.0)	3 (0.3)	4 (0.4)	2 (0.2)	109 (11.8)	1 (0.1)	279 (30.3)
		(40.6)				(29.0)							
衣服の着脱 をする	665 (100.0)	223 (33.5)	41 (6.2)	72 (10.8)	27 (4.1)	1 (0.2)	48 (7.2)	— (—)	3 (0.5)	— (—)	46 (6.9)	1 (0.2)	203 (30.5)
		(54.6)				(14.7)							
身の回りの 掃除、整理整 頓をする	1,136 (100.0)	351 (30.9)	57 (5.0)	139 (12.2)	65 (5.7)	5 (0.4)	118 (10.4)	4 (0.4)	4 (0.4)	— (—)	45 (4.0)	3 (0.3)	345 (30.4)
		(53.9)				(15.5)							
洗濯をする	1,162 (100.0)	385 (33.1)	69 (5.9)	152 (13.1)	76 (6.5)	5 (0.4)	74 (6.4)	1 (0.1)	3 (0.3)	— (—)	37 (3.2)	1 (0.1)	359 (30.9)
		(58.7)				(10.3)							
寝返りをす る	351 (100.0)	102 (29.1)	27 (7.7)	37 (10.5)	15 (4.3)	— (—)	17 (4.8)	— (—)	1 (0.3)	— (—)	35 (10.0)	2 (0.6)	115 (32.5)
		(51.6)				(15.1)							
家の中を移 動する	455 (100.0)	125 (27.5)	30 (6.6)	54 (11.9)	27 (5.9)	1 (0.2)	25 (5.5)	— (—)	1 (0.2)	— (—)	41 (9.0)	3 (0.7)	148 (32.5)
		(51.9)				(14.9)							
外出する	1,305 (100.0)	346 (26.5)	56 (4.3)	210 (16.1)	79 (6.1)	5 (0.4)	98 (7.5)	9 (0.7)	4 (0.3)	5 (0.4)	66 (5.1)	4 (0.3)	423 (32.4)
		(53.0)				(14.3)							
日常の買い 物をする	1,475 (100.0)	406 (27.5)	65 (4.4)	240 (16.3)	104 (7.1)	5 (0.3)	102 (6.9)	8 (0.5)	3 (0.2)	— (—)	44 (3.0)	6 (0.4)	492 (33.4)
		(55.3)				(11.0)							

() 内は構成比 (%)

C 介助に係る費用負担の状況

○介助に係る費用負担の状況をみると、介助者の約6割が家族であることから、介助を受けている者のうち費用を負担していない者が、26.9%である。どの障害においても、「1～5万円未満」の割合が一番高い。

表 25 障害の種類別にみた介助に係る費用（身体障害者）

	総 数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総 数	1,756 (100.0)	201 (100.0)	120 (100.0)	1,115 (100.0)	320 (100.0)
月額0円	472 (26.9)	61 (30.3)	33 (27.5)	285 (25.6)	93 (29.1)
月額1万円未満	266 (15.1)	37 (18.4)	19 (15.8)	156 (14.0)	54 (16.9)
月額1～5万円未満	424 (24.1)	43 (21.4)	22 (18.3)	295 (26.5)	64 (20.0)
月額5～10万円未満	143 (8.1)	12 (6.0)	11 (9.2)	94 (8.4)	26 (8.1)
月額10～15万円未満	46 (2.6)	2 (1.0)	2 (1.7)	39 (3.5)	3 (0.9)
月額15万円以上	32 (1.8)	2 (1.0)	2 (1.7)	27 (2.4)	1 (0.3)
回答なし	373 (21.2)	44 (21.9)	31 (25.8)	219 (19.6)	79 (24.7)

() 内は構成比 (%)